

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170501373), 法人名 (医療法人愛全会), 事業所名 (グループホームひだまりの丘), 所在地 (〒005-0824 札幌市南区南沢4条1丁目7-10), 自己評価作成日 (令和5年11月17日), 評価結果市町村受理日 (令和6年1月24日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境の中、大学、高校を目の前に活気あふれる地域に密着しており、町内会との連携を密に図っております。温かい家庭的な雰囲気の中、入居者様の力を発揮出来るように個別ケアに重点を置き、支援をさせていただきます。前年度まではコロナ禍ということで、地域との交流がうすれてしまいましたが、今年度は運営推進会議の時に町内会、地域包括支援センター、そしてご家族の方々とともに防火訓練を行うことができました。また、ご家族とともラベンダー見学、夏祭りを楽しめるよう実施しました。スタッフは認知症に関する知識を習得できるよう、内部・外部研修に継続的に参加しています。ご家族様とは来訪時に生活の様子をお伝えしたり、お手紙により密に連絡を取り、ご意向に添っていただけるよう、より良い関係作りを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170501373-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和5年12月13日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームひだまりの丘」は、高校や大学がある住宅街に位置している。3ユニットで27名の利用者が職員の温かい支援のもと、一つ屋根の下、温もりある環境の中で生活を共にしている。コロナ禍以前の生活に戻りつつあり、運営推進会議では家族のさり気ない言葉で避難訓練に立会い気づき等を述べており、防災や減災に生かしている。家族参加型の夏祭りやラベンダー見学を企画し、久しぶりの集いに利用者のみならず家族や職員も笑顔になれるひと時となっている。職員は、さらなる地域や家族との交流を考慮しており、実現に向けて検討を行っている。利用者主体の理念やユニット目標の実践に努めている事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service results and evaluations.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目の届く所に掲げ共有している。	法人理念を踏まえた事業所共通理念とユニットごとに目標(理念)を策定している。事業所の要所に掲示し、また、カンファレンスなど折に触れて理念の持つ意義と実践の確認を行い、共通認識を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事(ゴミ清掃、花壇整備など)の参加を通じて交流活動をしている。	回覧板や運営推進会議を介して地域情報が得られ、町内活動の清掃や花壇作りに職員が参加している。駐車場での子供神輿の披露や看護実習生の来訪は、利用者がより笑顔になる機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護実習や認知症実践者研修等の受け入れを積極的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に計画的に予定し、サービス提供の内容報告を行うとともに、地域やご家族様からの意見を伺う等、相互理解を深める場として活用している。	会議は、町内会長、地域包括支援センター、家族の参加を得て定期的に開催し、各ユニットの利用者状況や活動内容、事故やヒヤリハット公表等に加え、介護ホーム事業室からの報告後にメンバーから意見や提案があり、運営の質確保に生かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当との連絡は主に介護ホーム事業室にて行っており、必要に応じて情報共有している。運営推進会議、集団指導などにおいて、各担当者からの助言をケアに取り入れている。	行政の各部署とは介護ホーム事業室と管理者が、それぞれ分担して運営の向上に向けたやり取りが行われている。集団指導はズームで視聴、制度改正時は確認を取り、介護保険更新認定調査で来訪の職員とは情報を共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当グループホームでは「身体的拘束等適正化委員会」の会議(年4回)及び研修(年2回)を行なっている。職員は内部研修で身体拘束について学び、行為を正しく理解し、日々のケアに活かしている。	運営法人全体で身体拘束や虐待をしないケアを掲げている。定期的な適正化委員会や研修を開催し、正しいケアへのさらなる学びと共通理解に繋げている。不適切なケアの廃止に向けた年間目標を立て、達成度を確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当グループホームでは「虐待防止検討委員会」の会議(年4回)及び研修(年2回)を行なっている。職員は内部研修で身体拘束について学び、行為を正しく理解し、日々のケアに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要となった場合は活用できるよう支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書をもとに重要事項を説明し同意を得ている。またグループホームでの生活が継続できなくなった場合、医師、看護師などの意見もふまえつつご家族様に状況の理解をして頂き、ご本人様にとって最適と思われる住み替えの場の紹介、説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様来訪時に会話出来る機会を設けるとともに、ご意見箱をおきいつでも意見を言える機会を設けている。年1回、グループホーム全体でアンケート調査を行い意見要望を頂いている。また、運営推進会議にてご意見やご要望いただき、入居者様やご家族様の希望を反映させる場としている。	家族には毎月各ユニット便りを届け、さらに都度の電話やライン、来訪時にも利用者の詳細を伝える中で意見を傾聴している。家族満足度アンケートで出された意見は迅速に改善策を講じ、利用者の要望には都度対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回法人内で人事考課が実施され、職員の意見を聞いている。働きやすい環境にするよう職員も意見を言える機会がある。	管理者は、日々職員の意見に耳を傾け業務改善に努めているが、内容によっては介護ホーム事業室に委ねている。今後、職場環境整備を目的とした職員アンケートを行う予定にあり、満足度向上を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課時に自己評価表を個々に作成し、各自が向上心を持って働くことができるよう意見を取り入れ、個人面談で状況把握をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は法人内外の研修に計画的に参加している。部署外の研修にも参加できるよう情報提供を行っている。また、インターネットの活用を行い自己研鑽をおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南区管理者連絡会議等で管理者同士の交流を図っている。職員については、得た情報をケアカンファレンス等で共有し、ケアに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、1日の生活の流れの中で、常に声をかけ、その時の状況と思いに配慮しながら、ここは安心出来る場所であるということを認識できるよう、職員が連携し対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とご本人の課題を明確にして、グループホームで生活支援の方向性を見極め、必要に応じて医療等の専門職を含めた場を設け、不安なくサービス利用できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には、グループホームで可能な生活支援や役割をしっかりと説明し、必要があれば他のサービス機関と連携している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活に必要な家事や活動などへの関わりを作り、同等の関係であることを、生活を通して伝えている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その時々々の状況を家族に相談しながら、思いに沿って対応をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の家族や親せきが訪ねてきたり、ご家族に相談してお友達や昔の同僚を訪ねるため連れ出して頂いたりして、お手紙のやりとりや電話の取り次ぎを援助し、関係が途切れないように支援している。	利用者は、家族など馴染みの人との面会や家族の支援で友人や知人を訪ね、また、買い物後に外食をするなど交流が再開している。職員は利用者の昔話を共有し、会話の糸口としている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を見極めて、心に残るような交流ができるように場を設け環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退去してからも、相談を受けることがある。必要な支援につなげ対応している。また、経過の報告や逝去の知らせも受けることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で変化が見られる度にアセスメントを行い、家族へ報告、相談を経て柔軟に対応している。	利用者との会話から意向の把握に努めているが、根底にある思いや現状を見極めながら、出来る限り満足感が得られるよう、職員はコミュニケーション能力や洞察力を高めている。意向によってはケアプランに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントから、生活歴等を把握し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を職員間で情報共有し、生活支援につなげている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活支援を通し、常に状況の把握に努め、必要に応じて都度のカンファレンスを行い、職員一人ひとりがケアプラン作成に携わっている。	ケアプランの作成時は、利用者の意向と家族の望みを最優先にしている。利用者にとって必要なことや何を求めているのかを推し量り、その実現に向けて主治医やリハビリ専門職の意見も踏まえて、職員のすべき支援を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録で過去を振り返り、以前の実践状況から現在に活かせる支援を見つけることもできる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所として、生活機能向上連携加算の取り組みを行っている。理学療法士、作業療法士の専門職が生活支援に介入している。必要に応じて医療のサービスを追加するなど、多機能なサービスの提供を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問による歯科、美容室、マッサージ、薬局や介護タクシー、ドックセラピーなど、また町内会、地域包括支援センターと連携している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療と、これまでのかかりつけ医による医療機関への通院、専門病院への通院等で、家族と医療機関と連携し支援している。	受診は、利用者や家族の希望に応じているが、現在は8割程が、月2回母体の医療機関による訪問診療を利用している。外来受診は、家族対応としている。さらに、週1回訪問看護師による健康管理と職員に対して的確な助言が得られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護による健康相談を受けている。日中はもちろん、夜間や土日にも相談できる体制が整えられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事業室看護師と入院先の地域連携室の相談員が、密に連携しながら情報の共有を図っており、その情報を事業所と共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と家族のICの機会を設け、家族に現在の状況と今後の方針の共有が出来るよにしている。	事業所としての医療連携体制を入居時に説明して同意を得ており、重篤時は利用者並びに家族の意思を確認してから、新たなケアプランを策定している。医療従事者や家族と方針を共有し、利用者や家族の望む最終ケアに臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故などを想定した初期対応のシュミレーションやAEDの研修も受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火防災の避難訓練と研修をおこなっている。町内会の方々にも訓練に参加していただいている。	年3回、夜間時に火災や地震、水害を想定した避難訓練や研修を計画し、順次実施している。新人職員を優先し全職員が参加できる仕組みを作り、法人本部や地域の協力を得ながら、安心安全に避難誘導ができるよう努めている。	防火や防災を見直す機会があり、総点検が行われ洗い出された課題は早急に改善策を講じている。加えて、地域を含む連絡網の作成、入浴時などケア場面での対処、非常時に応じた避難場所の再確認と関係者に通知等への取り組みに期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳に配慮した対応を行ない、個人情報事務所の決まった場所に保管し、適切に管理している。	適切な接遇のあり方は、事業所理念やユニット目標にも掲げ実践に努めている。管理者や職員間でも折々の場面で注意喚起を促しながら、利用者が不快にならない支援に努めている。個人情報の取り扱いも十分に配慮して行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の状況に合わせて希望や思いを聞き、自己決定や選択が出来るよう支援している。意思を持って行動を始めた場合は尊重し、安全に行えるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆとりのある日課表を作成し、皆さんと合わせた時間と個人のペースでの時間両方を過ごせるよう支援している。行事等を行うときには、長時間にならないようにし、息抜きができるような時間配分に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隔月で訪問美容室にて好みのカットをしていただいたり、着る服を一緒に選んだり自己決定・選択ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下準備・盛り付け等、出来る範囲で入居者様と一緒にやっている。食や飲み物に興味を持っていただけるよう入居者から見える場所で食事等の準備をしたりと工夫している。	豊富な内容の食事に加え、月1回はお弁当の日を設け、幕の内や松花堂弁当等を用意し、時には出前寿司で変化を付けている。おやつは、利用者がアルミ箔に包んだ焼き芋やパンケーキ等を作り格別な味を堪能している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立表を参考に、バランスの良い食事を心がけている。食が進むような盛り付け等にも意識して取り組んでいる。水分の摂取量を確認・職員間で共有し、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所に誘導し支援している。義歯は就寝前に預かり、洗浄剤につけ衛生管理をしている。必要な場合は歯科受診できる体制にしている。歯科受診者は定期的な訪問歯科のオーラルケアを受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の行動・習慣に合わせ、トイレ誘導や声かけを行っている。排泄チェック表に記録し排泄間隔を把握できるよう心がけている。	利用者の状況により、自力排泄での見守りや2人介助でトイレにと様々だが、自尊心に配慮して支援している。布下着の着用や衛生用品の必要時も利用者や家族の意向を確認して、職員間で検討が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や適度な運動の提供をし、便秘予防に努めている。また状況に応じ主治医の指示の下、服薬調整をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に添って入浴が楽しめるよう支援している。入浴剤等を用い、入浴時間がよりよいものになるよう努めている。	入浴は、利用者一人ひとりの状態や要望に応じて2人介助や足湯をしてのシャワー浴も取り入れて支援している。週2回以上を基本に、入浴後はスポーツドリンクで水分補給をしている。入居時は入浴拒否であった利用者が、職員の努力で入浴ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムを尊重した支援を行なっている。夜間寝付けない場合、職員とフリートークをしたり飲み物の提供をしたり、穏やかな時間を過ごしていただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を職員間で共有しており、服薬後の変化を観察し記録している。主治医に詳細な情報を提供し、内容の調整を適宜行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションに参加して皆と一緒に、又は個別に好みを活かして楽しめるよう支援している。個別に洗濯物干しや居室の清掃・整理整頓等ご自身の周辺の管理を安全に行えるよう支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近くのコンビニに出かける支援をしている。また家族の協力のもとドライブや買い物、食事に出かけられるよう支援をしている。	日常は、周辺の散歩や買い物、事業所から見える桜やサクランボの木を眺めるなど、外気に触れる機会を作っている。花見ドライブや家族参加のラベンダー見学、観光地巡り等を企画し、気分転換と程よい刺激に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したり使える方には、近くのコンビニに行った際は、自分で所持しているお金から支払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきた際は個人情報保護に留意しつつ、家族やお友達からの電話のとりつぎを援助している。知人からの手紙もあり、手紙も出したりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事スペース、ソファなどを余裕を持って配置し入居者が自由にくつろげるようになっている。定期的に評価をし、必要時配置換えを行っている。	リビングの中に、食事処と少し離れてソファや椅子を設置してメリハリを付けるなど、生活環境を整備している。リビングではクリスマスに因んだ飾り物が、その先の年越し、お正月に繋がりに、利用者に季節を感じてもらおう取り組みが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの中でもプライベートな時間をもてるよう家具を配置している。入居者同士でぶつかってしまふときはスタッフが間に入り対応するようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご自身のなじみの物や好みの物などを持ってきて頂いている。定期的に評価をし、交換したりしている。居室で過ごすときは安全管理しつつプライベートな時間を持っていただけるよう距離感を考えながら関わっている。	クローゼットを設置している居室には、ベッドや鏡台、大切な仏壇や手芸セット等が置かれている。家族写真やレクでの作品等に囲まれ、編み物や刺繍に精を出している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	説明のための掲示物等を使用し、スムーズに行動ができるような環境設定にしている。		